

副島基金による海外研究報告

研究期間 平成15年4月1日～平成17年3月31日

川崎医科大学皮膚科学 福 島 直 美

1) 研究施設の紹介

米国ミネソタ大学の耳科病理学教室のパパレラ教授のもとで、post-doctoral fellowとして2年間勉強させていただきました。耳科病理学教室には2000例のヒト側頭骨病理標本が所蔵されています。この数は全米1であり、その標本を用いた側頭骨の病理学的研究が行われています。また、標本を研究したい人々が世界各国から集まっており、私と同時期に日本人の他にトルコ人やブラジル人、フランス人が在籍していました。



ミネソタ州はアメリカ中西部に位置し、北はカナダと国境を接し、東は五大湖最大のスペリオール湖があり、州の南北をミシシッピ川が流れています。ミネソタ大学は学生数5万人、職員5千人のマンモス大学です。そのため敷地も広く、大学内をシャトルバスやタクシーが5～10分おきに行き来しています。耳科病理学教室の研究室は13階建てのビルの8階にあり、私が借りていた大学内の駐車場から研究室まで歩いて20分かかります。ミネソタの冬は厳しく、マイナス30度になるので、このような日に屋外を15分も歩けません。sky wayや地下道を駆使して屋外を歩かないようにして研究室まで行きます。ちなみにアパートには地下駐車場があるので、家から寒い思いをせずに研究室に行くことができます。

2) 実際の研究内容・成果の紹介

研究内容は「SLE (Systemic lupus erythematosus) 患者における側頭骨病理」です。2000例の側頭骨病理標本の中に8例のSLE患者さんがおられました。SLEは多臓器病変を引き起こし、まれに難聴をきたすことがあります。私が病理組織を見た症例では、ステロイドを投与しても難聴は改善せず、病理組織ではわずかな血管炎と血管新生、コルチ器の骨化がみられました。ステロイドを大量に投与してもコルチ器が骨化していると、難聴は改善しません。そのため、この患者さんは難聴が改善しなかったと考えます。また、この病理所見は難聴を伴う他の膠原病の側頭骨の病理所見と一致しておりました。この論文は2004年11月に「Otolaryngology & Neurotology」に投稿し、受理されました。



3) 研究成果以外に強く印象づけられた点(日常生活や文化的な面を含め)「ミネソタナイス」。これはミネソタ人の大らかさ、人の良さを表すフレーズとしてよく使われます。ミネソタ人はスカンジナビアからの移民の子孫が多いということで、物静かな控えめな人が多い印象を受けました。ミネソタ人は困っている人が

いたら気さくに手を貸してくれます。特に、外国人には優しいため、越してきた当初はそれほど疎外感もなく、住みやすさを感じました。道端ですれ違うとき、エレベーターの中や美術館などで気軽に声をかけてくれました。ミネソタに行く前は、アメリカ人は私達に冷たいのではないかと心配していましたが、やさしく接されることが多く、とても楽しく過ごすことができました。また、ミネソタに留学している多くの日本人とも知りあいになることができ、私の生活の大きな支えとなりました。この2年間の留学で研究・生活面において、私はとても素晴らしい経験をさせていただきました。



最後になりましたが、このような留学の機会を与えてくださいました、生化学 湊川洋介教授、皮膚科 藤本亘教授、耳鼻咽喉科 原田保教授に深く感謝致します。また、副島基金の助成により留学が実現しましたことを、心より御礼申し上げます。